写真班（梅崎春生）　＊＊

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。［50点］

玄関のブザーが重苦しく鳴り響いた。二度短く、三度目は長く。茶の間でモリソバを平らげていた彼は、心臓をどきんとさせ、ᴬ慌ててｱ箸を置いて（　1　）立ち上がった。彼はだんの日は勤めに出ているし、日曜日には来訪者はめったになかったのだから。しかしどうもこのブザーの音は心臓に響く。玄関のブザーと書いたが、玄関にあるのは押しボタンであって、ブザーの音源は台所に取り付けてある。茶の間は台所の隣にあるのだ。このブザーはずっと前の日曜日、見知らぬ電気屋がやって来て、半ば強制的に取り付けていったものだ。取り付け終わって電気屋は言った。電池代だけはおマケにしときます。おマケだって？　電池代だけがおマケだって？　ブザーの響きの充満した台所を、彼は腹を立てながらｲ擦過し、玄関に飛び出した。腹立ちの対象はもちろんブザーそれ自身と①それを取り付けた電気屋。それに②それを許容した自分自身もだ。玄関の扉を押し開けると、そこに見知らぬ男が二人立っていた。一人は四十前後の赤ら顔の男で、どういうつもりか、一握りの赤茶けたような鬚を、顎の下に生やしていた。も一人はそれより少し若い、頭をイガクリ坊主に刈った男で、肩から重そうに大きな写真機をぶら下げている。彼が玄関の扉を内側から押すとたんにブザーの音は鳴り止んだ。ボタンを押し続けていたのは、ｳ顎鬚男の親指だった。

「こんにちは。」

今までボタンを押していた指で、顎鬚は自分の鳥打ち帽のひさしを上方にｴハジいた。

「写真を撮らせてもらいに来ましたよ。」

「写真？」ᴮ彼はいぶかしく、またいらだたしげに反問した。「僕の写真をですか。僕はそんなものを頼まないですよ。」

「あなたの写真じゃありませんよ。」

顎鬚はにやりと笑い、玄関の土間にずいと入ってきた。イガクリも体を斜めにして、片足だけを踏み入れた。二人まるまる収容するには土間はｵセマすぎるのだ。そしてイガクリがぼんやりした声で言った。

「小さな玄関だなあ。」

「近頃の建築はどこでも玄関が小さいのだよ。」顎鬚がたしなめるように言って、再び顔を彼に向けた。「あなたの写真じゃなくて、家の写真ですよ。」

「家を写して何になる？」えたいの知れぬ狼狽を感じてᶜ彼は天井を見上げたり壁を見回したりした。「それに僕は……。」

「いや、お心使いは無用です。」顎鬚はポケットから名刺をさっと取り出し、彼が手を出さないのに、それをしゃにむに彼の掌に握らせ、イガクリを目顔で促した。「さあ。」

二人の男は一斉に腰をかがめて、ごそごそと靴のひもを解き始めた。押し付けられた名刺に急いで彼は視線を走らせた。「金融公庫住宅資料調査社写真班・多々良太郎」多々良というのが顎鬚男なのだろう。その顎鬚が靴を脱いで（　2　）上がって来た。押しとどめる間もなかった。続いてイガクリが上がって来た。脱ぎ捨てられた靴で狭い土間は靴だらけになった。彼は余儀なく台所まで後退りした。廊下も狭いので、後退しないわけにいかない。後退する彼を追い詰めるように顎鬚も歩を進め、台所にまで達すると立ち止まり、イガクリを顧みた。

「おもしろいところに台所があるな。」

「そうだねえ。」イガクリは写真機を肩から下ろしながら、吟味するように（　3　）した。「ふん。こちらが茶の間か。」

「ここを撮るか。」顎鬚が両手の親指と人さし指を使用して四角なワクを作り、それを自分の顔の前であちこち動かした。「台所から茶の間を見通すか。」

「ちょっと待って。」彼は慌てて口を入れた。「写真を撮るって、そりゃあ、あんたちょっと……。」

「大丈夫ですよ。」顎鬚がいやにはっきりした声を出した。「あなたを撮るのではなく、家を撮るのだ。家というものは、撮られても減りはしない。それにわたくしたちは命ぜられて、家を撮影する責任がある。それでお給金をもらっているんですからねえ。だから家は撮影される義務がある。」

顎鬚がしゃべっている間に、イガクリは金属製の三脚をどこからか取り出して、（　4　）脚を引き伸ばした。顎鬚は言葉を続けた。

「そこでわたしたちは家を撮って回っている。撮るのは家だけですよ。なに、この家が公庫から融資を受けているこれとは判っていますよ。我々は公庫の名簿で調べてきたんですからな。おい、用意できたか。」

イガクリはしきりに手足や機械を動かした。

「家にその義務があれば、自然家の持ち主にもD義務がある。」

「義務というと、写される義務？」「あんた自身には写される義務はないですよ。そりゃ先刻から何度も説明した。」

顎鬚はいらいらして掌を打ち合わせた。「なぜかと言うと、あんたはまるまるあんただからだ。ところがE~~この家はそう~~~~でない。~~」

問一　二重傍線部**ア**～**オ**の片仮名は漢字に改め、漢字はその読みを平仮名で答えなさい。

問二　空欄部1～4に当てはまる語を、次の**ア**～**オ**の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア　しずしずと　**イ**　きょろきょろと　**ウ**　のそのそと　**エ**　ガチャガチャと　**オ**　よたよたと

問三　波線部A「慌てて」とあるが、なぜ「彼」は慌てたのか。その理由として適当でないものを次の**ア**～**エ**の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　モリソバを食べていてブザーに気付くのが遅れたから。　**イ**　聞き慣れないブザーの音を聞いて、気が動転したから。

ウ　日曜日に誰かが家に来ることはほとんどなかったから。　**エ**　ブザーの音が、「彼」を急かすように鳴っていたから。

問四　傍線部①、②の「それ」は何を指すか、それぞれ答えなさい。ただし、②は十五字以内でまとめること。

問五　波線部B「彼はいぶかしく、またいらだたしげに反問した」とあるが、「彼」は何を「いぶかしく」思ったのか。三十字以内で説明しなさい。

問六　波線部C「彼は天井を見上げたり壁を見回したりした」とはどういうことか。適当なものを次の**ア**～**エ**の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　専門家が来てまで写真を撮る芸術的な価値が自分の家にあるのかどうかを検討している。

イ　顎鬚の男に気圧され視線が泳ぎつつも、家を撮ることに何の意味があるのか考えている。

ウ　自分の家の写真を撮られて、それが人に見られて恥ずかしくないかどうか想像している。

エ　家を建てたときの借金の話をされることを恐れて、顎鬚の男と目を合わせられずにいる。

問七　波線部D「義務」とは何か。「～義務」の形で、十五字以内で答えなさい。

問八　波線部E「この家はそうでない」とはどういうことか。三十字以内で説明しなさい。

問　八		問 七	問 六	問 五		問 四		問 三	問 二	問 一
						②	①		1	ア
									2	イ
									3	ウ
									4	エ
										オ

学 年
組
番 号
氏 名
得 点

写真班（梅崎春生）　＊＊

〔出題の意図と留意点〕　問一、漢字の書き取りと読み。問二、擬態語および擬音語の使い方を確認する。問三、心情理解。問五・問六は、言動から心理の動きをつかんだうえで、本文中の表現を使って説明できるかどうかを問う。問七・問八は文脈の的確な読み取りを確認する。

☆解答例と配点

問一　**ア**　はし　**イ**　さっか　**ウ**　あごひげ　**エ**　弾　**オ**　狭　〈2点×5〉

問二　**1**　オ　**2**　ウ　**3**　イ　**4**　エ　〈2点×4〉

問三　ア〈3点〉

問四　①　ブザー　②　電気屋がブザーを取り付けること。（十五字）〈4点×2〉

問五　男たちが、頼んでもいない自分の写真を撮ると言っていること。（二十九字）〈6点〉

問六　イ〈3点〉

問七　家の写真を撮ることを許可する（義務）（十四字）〈6点〉

問八　この家が公庫から融資を受けて建てられていること。（二十四字）〈6点〉

計50点

写真班（梅崎春生）　＊＊＊

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。［50点］

「でも、僕はブザーやベルの音は嫌いなんだ。」

「なぜ?」

「ごめんください、という声を聞けば、来訪者のおおよその性格が見当つくけれど、ブザーやベルはそういうわけにはいかない。ね、そうでしょう。」背の高い電気屋を奥に通すまいと、狭い廊下に立ち塞がるようにして、彼は必死にｱｺｳﾍﾞﾝした。「友達のブザーも、押し売りのブザーも、保険勧誘人のブザーも、音色は一つだ。性格がない。扉を開けるまでそいつの正体は見当がつかない。そんなのは僕は厭だね。ごめんください、のほうがよっぽどいい。」

「何を言ってんですか、あなたは。」電気屋は失笑して、右手を伸ばして彼の肩を押すようにした。「いくらごめんくださいのほうがいいと言っても、あなたに聞こえなきゃ意味がないじゃないですか。第一あなたは身勝手ですよ。ごめんくださいの連呼で来訪者をｲヒロウさせ、ヒロウさせたあげくに正体を見当つけようと言う。トクをするのはあなただけじゃないですか。」

彼はｳカタを押されて二三歩後退りした。電気屋は手をｴユルめず、彼について前進した。そしてとうとう彼は台所まで押し戻され、うやむやのうちにブザーを取り付けられてしまったのだ。その自分の引き下がり方が、今のこの写真屋の場合とそっくりだと思ったとき、彼は茶の間に戻りながらｱ身をよじりたくなるようないまいましさを感じた。

（つまり俺がまごまごと押し戻されてしまうのは――）彼は（　1　）チャブ台の前に座り、箸を取り上げながら考えた。（つまりこちらがはっきりしていないためだ。この家がはっきりと自分のものであるという自覚、そいつがこの俺にないためだ）

半年前にこの家を建てたとき、それもやっとの思いで建てたときから、その不安定なものが彼につきまとって離れない。それには理由もあった。家を建てた費用の約三分の一は住宅公庫からの借入金であったし、残余の二分の一は彼が勤めている会社からの借金で、そのまた残余の二分の一は親類や先輩からの借金であった。彼が自分で出したのは、総額の六分の一にすぎなかった。そのことが当初から彼の意識にまつわり、彼の物腰を落ち着かなくさせている。すべての因がそこにあるようであった。この家が彼の所有物であるというより、自分がこの家の付属物であるような、棟木とかガラス窓とか下駄箱、そんなものと等価値のものであるような気がいつも彼にはしている。（この家がはっきりと俺のものでないとすれば、いったいこれは誰のものだろう?）

彼は箸をソバにつけた。ソバは伸びてぐちゃっとくっつき合っていた。その二筋三筋を引き剝がして口に持っていく。ひどくまずい。まずいけれどもｂ食べ残すわけにはいかないような気持ちが別にある。彼はまた箸をソバに伸ばした。台所でファインダーをのぞいていたイガクリが、首をかしげてうんざりした声を出した。

「目障りだなあ。どけてくれませんか。」

「僕をどけろと言うんですか。」彼はソバをつまんだままｃむっとした顔を台所に向けた。やはり少し声が高くなった。

「あんたじゃありませんよ。」顎鬚がなだめるように目尻にしわを寄せて言った。「こいつが言っているのは、そのモリソバのことですよ。」

「そうだ。そうだ。」イガクリがうなずいた。「公庫住宅写真集にモリソバが写っていては具合が悪い。」

彼は肩をそびやかして何か言い返そうとした。が、すぐに肩を元の高さに戻した。ソバのザルを持って立ち上がった。次の間に足を踏み入れた。部屋はもうこれだけしかない。そこをはみ出るともう庭になる。狭い庭には庭樹がたくさん繁っている。彼は部屋の真ん中に座り、ぼんやりした目で庭を見回す。何か不法なことが行われているが、その正体がはっきりつかめない。これが夢なら、何かのｵヒョウシにふっと判ってしまうのだが、夢じゃないからそううまくはいかない。カチッとシャッターの音がした。低い声で二人が台所で何か相談し合っている。彼はさっとそちらを振り向き、また顔を元に戻して、思い切ったようにまずい残りソバを箸でつまみ上げた。伸びて団子状に固まっているので、それは容易につまみ上げることができる。彼はそれを全部無理やりに口の中に押し込んだ。目を白黒させながらｄそれをかんだ。二人の写真班は何かこそこそ話し合いながら、台所から茶の間に移動し、そのまま彼のいる部屋に侵入してきた。真ん中に座っている彼を無視して、二人は立ったままガラス戸越しに庭のほうを（　2　）眺めている。

「ずいぶんごちゃごちゃと樹が生えているねえ。」

「そうだねえ。まるで植木市みたいだな。」

ｅ彼はまるで自分自身が光を発さない光源体みたいな感じになり、そいつをぶち破るために何か叫び出そうとしたが、口いっぱいに詰め込んだソバのために、それはほとんど声にならなかった。

問一　二重傍線部**ア**～**オ**の片仮名を漢字に改めなさい。

問二　空欄部1、2に当てはまる語を、次の**ア**～**エ**の中から選び、記号で答えなさい。

ア　むずむずと　**イ**　しげしげと　**ウ**　まざまざと　**エ**　しょぼしょぼと

問三　波線部**A**「身をよじりたくなるようないまいましさ」は何に対して感じたのか。適当でないものを次の**ア**～**エ**の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　電気屋がブザーを無理やり取り付けたこと。

イ　過去の自分が電気屋に対して引き下がったこと。

ウ　写真屋に時間をとられモリソバが伸びてしまったこと。

エ　電気屋と同じように写真屋が家の中に侵入してきたこと。

問四　波線部**B**「食べ残すわけにはいかないような気持ち」が「彼」にあるのはなぜか。説明しなさい。

問五　波線部**C**「むっとした顔」をしたのはなぜか。本文中の言葉を用いて五十字以内で説明しなさい。

問六　波線部**D**「それ」とは何か。本文中から十字以内で抜き出して答えなさい。

問七　波線部**E**「彼はまるで自分自身が光を発さない光源体みたいな感じになり」という表現から「彼」のどのような様子を読み取ることができるか。説明しなさい。

問七		問六	問五			問四	問三	問二	問一		学年
								1	ア		
											組
								2	イ		
											番号
									ウ		
											氏名
									エ		
											得点
									オ		

写真班（梅崎春生）　＊＊＊

〔出題の意図と留意点〕　問一、漢字の書き取りと読み。問二、語句の意味。問三、心情理解。問四、直前の心情を踏まえたうえで、行動にこめられた意味を読みとる。　問五、文脈理解。問六、指示語の問題。問七は文脈の的確な読み取りを確認する。

☆解答例と配点

問一　**ア**　抗弁　**イ**　疲労　**ウ**　肩　**エ**　緩　**オ**　拍子　〈2点×5〉

問二　1　エ　2　イ〈2点×2〉

問三　ウ〈4点〉

問四　物であるソバを平らげることで、自分がこの家にある物と同じであるような不安をふりはらうため。〈10点〉

問五　写真屋が自分をこの家の付属物であるような発言をして、よりその気持ちが強められたから。（四十二字）〈8点〉

問六　まずい残りソバ（七字）〈4点〉

問七　言いたいことがあるけれども、その言いたいことが何かははっきり認識できておらず、言いたい欲求だけがある様子。〈10点〉

計50点